



議会を変えよう！静岡市が変わる！

清水庁舎住民投票に反対しながら、清水駅東口に桜ヶ丘病院建設

コロコロ変わる田辺市政追認の議会主要 3 会派の責任は大きい！

庁舎建設を白紙撤回し、アフター&ウイズコロナ時代のまちづくりを！

2020 年の静岡市政は、未知のコロナウイルス感染拡大と重なり、清水庁舎住民投票条例制定とコロナ感染対策に追われ混迷を極めました。2021 年は、3 期目田辺市政の中間選挙、市議会議員の改選期で、市民の選択により静岡市政を変えるチャンスとなります。昨年の 11 月定例会総括質問では、①気候危機非常事態宣言と対応について、②コロナ感染拡大と静岡市政（詳細はP2-3 参照）をテーマとしました。

2020 年 12 月、田辺信宏市長と JCOH(独立行政法人地域医療機能推進機構)の尾身茂理事長は、清水駅東口公園(7300 m²)に 2021 年度着工、2023 年度 150 床程度の新病院を開院することで合意しました。敷地面積は 4900 m²、医師確保支援・新診療科開設、JCOH 所有の大内新田(3 万 m²)と等価交換、不足分は現桜ヶ丘病院土地との交換や無償貸与も協議するとしています。ただ、まつやが度々指摘した大内新田に JCOH が未購入の土地開発公社所有の 3920 m²、3 億 4474 億円(いわゆる塩漬け土地)処分問題があることを忘れてはなりません。

昨年の 8 月の臨時議会で清水庁舎建設は「住民理解を得ている」と反対した時点から 9 月議会での債務負担の廃止、そして今回の合意と、ころころ変わる田辺市長の政治姿勢は「禍転じて福となす」どころか、政治への信頼を失わせるものです。しかも、津波浸水区域への病院移転です。東口公園に残る 2400 m²にデジタル庁舎建設の可能性は残るものの、この際、清水庁舎建設を白紙撤回し、庁舎位置を定めた条例改正そして現庁舎の大規模改修に踏み切るべきです。

葵区においては、歴史文化施設の建設が始まり駿府城公園の新城址発見・フィールドミュージアム化及び 3 回にわたる市民文化会館大規模改修ワークショップも終わり新たな段階に突入します。

市民文化会館建替・アリーナへ併設構想の白紙化に大きな役割を果たした市民グループ「公共空間を考える会」は、①様々なサイズの、ジャンルの作品に対応できる制作スペース、②表裏の概念を払拭する中ホールと大ホールとの間の貫通(減築)、③北街道からの回遊性や会館前の広場機能、④二つのホール間をぶち抜くことで確保された建蔽率を使って、広場に映像制作スタジオを設置、⑤VR(バーチャル仮想空間)に代表される新しい映像表現に伴う舞台芸術の深化に対応できるホール設備、等々提案しています。2020 年の 9 月定例会総括質問で以上のような問題提起しました。2021 年もまつや清は「幸せといえる静岡市」を目指して議会活動に邁進します。

城北から

静岡県、静岡市にとって「ベーター思想」「SDGs」とは何であるのか！

2020 年 12 月 17 日、静岡県河川改良課と静岡市緑地政策課と「ベーター安東川ネットワーク」合同の意見交換会が開催されました。住民グループは、「安東川エリア」を SDGs に基づくビオトープ区域(オニバスやホタルの里)として位置づけ、県と市が環境整備事業として共同で進めていくことを求めて来ました。まつや清も同席しました。

静岡県からは、2022 年 3 月に第 2 工区安東川エリアの治水工事は終了することや城北町内会とのリバーフレンド継続による広場としての活用などが示されました。

静岡市からは 2021 年度「遊水池保全活用協議会」で協議、2022 年度麻機遊水池ランドデザイン行動計画組み入れ、4 次総合計画(2023 年~26 年)での具体化が示されました。

課題もいくつか。一つ目は来年 4 月以降のビオトープ化準備のための池の底での井戸掘削やオニバス池への改変などの具体的な条件の不透明さ、二つ目は来年 4 月以降、遊水池に住民の手が加わらなければ雑木林化すること。三つめは 5 年という長期間の住民グループのモチベーション維持の難しさ。静岡市は、「ベーター思想」「SDGs」に魅せられて行動する住民の活動をどのように受け止めているのか、真価が問われます。



静岡市の第一波、第二波(2月～10月)112人 第三波(11月～12月20日) 613人！
第三波 専門学校とアルバイト先、病院、高齢者施設、飲食店など 17のクラスター発生！
県内中部病床利用率上昇！医療崩壊を防ぐために求められる感染防止対策の徹底！
「いつでも、誰でも、何度でも」PCR検査ができる環境を田辺市長に要請しています！

政府は、12月28日から1月11日まで、Go Toトラベルを中止しました。しかし、それ以降のコロナ感染状況がどのような展開となっているのか、だれも予想をできない状況になっています。

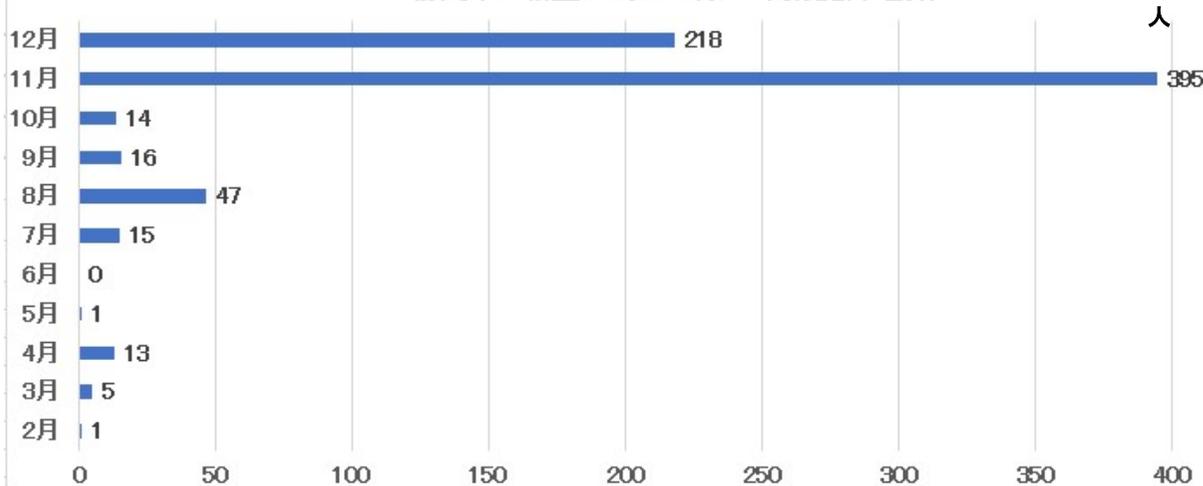
まつや清は、9月議会総括質問において、重症化リスクの高い314の介護施設へのアンケート調査を行い、「いつでも、誰でも、何度でも」受けられる検査体制の充実を求めました(9月議会「市議会だより」に掲載)。

11月議会においては、①続発するクラスター発生状況の原因・背景をどのように分析しているのか、②市民の不安への説明責任として、クラスター発生施設等の公表を検討すべきではないか、③9月議会に続いて高齢者施設へのPCR検査を拡充すべきではないか、を取り上げました(11月議会市議会だよりに掲載)。

こうした経過を踏まえ昨年の11月7日の定例記者会見で静岡市は、ようやく飲食店1000店での無料PCR検査、保健所による飲食店調査訪問(コロナ対策の現場チェック)、高齢者施設への保健所・病院関係者による施設訪問とアドバイスなどを実施し、少しずつ感染対策の遅れを取り戻しつつあります。

最前線で対応する保健所、病院、環境保健研究所など行政関係機関、そして介護・保育・学校・スーパー・運輸などのエッセンシャルワーク分野で働いている皆さんは、疲労困憊の中で職務を遂行され、社会維持に努めていらっしゃいます。関係の皆様への献身的な対応には、心より感謝申し上げなければなりません。一方で、感染者や医療関係者への心無い差別・中傷・迫害事件が起きています。誰でも感染します、人権を大切に、そして正しい知識を身につけましょう。トップとして田辺市長の危機管理対応策については、厳しい検証が必要です。2月定例会(2/28～3/11)でも引き続き、市民が必要としているコロナ対策について訴えていきたいと考えます。

静岡市の新型コロナウイルス 月別感染者数



コロナ禍による静岡市の財政状況

11月議会において、コロナ禍、経済危機の中での税収不足から、減収補填債7億円(借金)、コロナ税収減で創設された法人市民税など支払えない事業者に納税を猶予する、その分を借金できる猶予特例債11億円(借金)、合計18億円が計上され質疑しました。この減収や猶予はコロナショックがまだ始まって間もない段階での決算見込からの税収の減収見込ですが、来年度はさらに減収することが予測されます。現時点で、今年度当初予算と比べて約74億円(個人市民税20億円、法人市民税28億円、固定資産税25億円)の減収が見込まれます。また、来年度当初全体では、要求時点で145億円の財政不足が生じています。来年度更に借金は増え続けます。「地方交付税がある」との意見もありますが、交付されるのは75%分で25%は自治体財政で賄います。地方交付税自体は今年度並みですが、臨時財政対策は今年度の2倍と見込まれています。リーマンショック時に、22億円の減収補填債を発行し、返済に10年を要しました。

法人市民税減収額	法人市民税猶予額	固定資産税猶予額
資本金1億超大企業 4200者 7億3000万減収	大企業 40者 6億3000万	大企業約 20者 1億6000万
大企業以外 1万6800者 1億3000万増収	大企業以外 110者 7000万	大企業以外 150者 1億4000万
合計 6億円	合計 7億円	合計 3億円

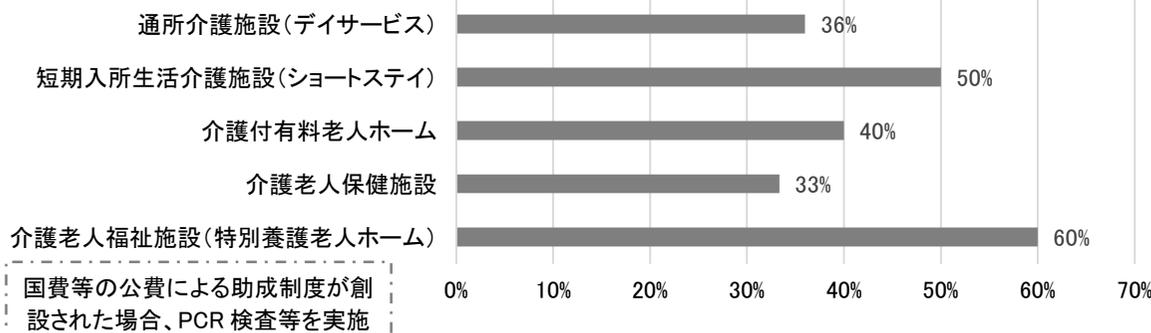
コロナ対策費として4月から11月議会まで特別定額給付金702億円を含むコロナ対策費853億円を支出。853億円の財源の内訳は、国費801億円うち臨時交付金61億、県費12.8億円、うち包括交付金2.4億円、一般財源38.8億円で、執行見込み額は、11月時点で768億円。

**まつや清を応援する会
特製 マスク**
「Say Yes! Say No!」
 1枚500円で好評発売中
 1月より、城北事務所で扱っています。
 マスクをつけて、まつや清を応援してね！



施設別 公費PCR検査等希望割合

静岡市議会議会事務局 調査法制課調べ (2020年8月20日~9月14日)



チャンネルまつや

YouTubeで動画配信はじめました。

チャンネルまつやを通じて、静岡で活躍する、静岡を支えている方々、あるいは、市民活動、子育てや環境の問題、教育の問題など、いろいろな方々を紹介しながら、静岡の街が本当に楽しく、安心して住める、そんな街だということを皆さんに伝えていきます。

毎週日曜配信



田辺市長 2050年温室効果ガス排出 実質ゼロ宣言！ 議会としての「気候非常事態宣言」が何故実現できないのか！

昨年8月28日、県内学生グループ『Fridays For Future Shizuoka』(F.F.F Shizuoka)から、「議会として気候危機非常事態宣言」を上げてほしいと要望がありました。私の所属する”会派緑の党グリーンズジャパン”として、超党派の全会派との意見交換会を働きかけ実現することができました。10月26日、菅首相が国会で「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ宣言」を表明しました。それを受け、11月9日に、市議会主要3会派(自民党、志政会、公明党)から、田辺市長に「2050年実質ゼロ宣言」を求める要望が提出されました。11月19日、20日には、国会の衆参両院で気候非常事態宣言が行われました。これを好機ととらえ、会派緑の党及び緑の党静岡県本部は、繁田和三市議会議長に、F.F.F Shizuokaからの「気候危機非常事態宣言」を議長提案として取りまとめてほしい旨の要望を提出しました。残念ながら、最大会派の自民党議員団の了承を得ることができず、先送りとなりました。京都市議会は、全会一位で「宣言」を採択しました。

田辺市長は、12月2日、本会議で政府の方針転換、政令市の動向、議会からの要望を鑑みて「2050年実質ゼロ宣言」を行いました。12月18日本会議最終日に議会としての「気候危機非常事態宣言」をできなかったことはとても残念です。まつや清は、6月議会、11月議会と「気候危機非常事態宣言」について総括質問をし、今後も再生可能エネルギー100%の静岡を目指していきたいと考えます。



市議会主要4会派(自民党、志政会、公明党、創生静岡)は 何故反対しないのか！ 静岡県漁連が反対する「福島第一原発 トリチウム汚染水海洋投棄」！

支援交流「虹っ子」(代表 小笠原学)、浜岡原発を考える静岡ネットワーク(代表 鈴木卓馬)、原発なくす静岡の会(代表 林 克)の3グループからの「トリチウム汚染水の海洋放出に慎重な判断を求める意見書提出を求める請願」が出され緑の党として賛成討論を行いました。残念ながら40対4で否決されました。足元の県漁連が「断固とした反対」を表明しているのに何故、地元の漁業者の声に耳を傾けないのでしょうか。「国で対処している」として自分たちの判断を保留されることに納得のいかないところがあります。



9/8 南アルプス地下水 300m
低下問題で静岡市へ申入書



9/27 シュースアクション(気候危機を止めよう)参加



10/10 地球ハウス学校
スタジオジブリ代表 澤野宏史氏



10/11 久しぶりのマラソン
練習(駿府城公園にて)



12/11 福島の子どもたちのための街頭募金活動



12/12 まつや清を応援する
会主催 年末リレートーク



1979年から同じ方をむいて一緒にやってきた人 まつや清さん

私が子どもの本の店「百町森」を始めようと、東京の大学生生活から静岡に帰って来た1979年は、松谷さんが最初の活動拠点「まちと生活を考える市民センター」を始めた年でもありました。そこは、世の中の「ちょっとおかしいんじゃない」と思えるようなことに、目をつぶらないで、問題点を皆で話したり、解決策を生み出して行こうという場だったように思います。その後、そこでの活動をもとに、安全な食物の共同購入を始めたり、市議員に立候補したり、その頃からずっと松谷さんは私にとってはかけがいのない存在でした。松谷さんも夫婦別姓、普段は旧姓を使って活動する人、私も一緒です。日本は世界でも珍しく選択的夫婦別姓が認められていない国ですね。そして、エコやリサイクル、リユース、自然エネルギーに関心がある人、これも私と一緒にです。数年前には、現政権を倒すために野党の皆さんと共闘をしてくださというウェブがありました。そんな人の集まりに松谷さんは私を誘ってくれました。この時に出会った人たちから私はとてもいい影響を受け、今でもそれは大変役に立っています。松谷さんは、また、ミヒヤエル・エンデ作『モモ』やル＝グウィン作

「ゲド戦記」を贈り物にすると、よく百町森に買い物に来てくれる人でもあります。文化や芸術に関心があるということ、それだけでも他の政治家とは違いますね。



百町森に来る若い子連れのお客さんに、政治って実は私たちの生活そのものなんだよって私には知ってほしい。松谷さんは市議会という世界にいて、政治に繋がる社会的な言葉を使い仕事をしているけど、やっていることや思っている方向性は私とほぼだまって、常々思っています。私は松谷さんと話すといつも感じることがあります。私のお客さんとの会話などでよく使っている生活レベルの言葉を社会的レベルの言葉に変換してくれ、別角度の視点が加わり思考が整理されるという事です。そういったいろいろな意味で、松谷さんとは41年間、静岡の町で、ずっと一緒にやって来たなと思っています。

子どもの本とおもちゃ 百町森 店主 柿田友広さん

JR 東海の南アルプへのリニア新幹線トンネル工事に対する、差し止めを求める民事訴訟の第1回公判が1月15日、静岡地裁で開催されます。昨年10月30日に、まつやも加わる107名の原告団で提訴されました。合わせて「大井川の水を守る62万人運動」推進協議会も結成され、「大井川の命の水を守る取組みを求める署名運動」が展開されています。署名用紙は「ホームページからダウンロードできます。ご協力ください。(上記QRコードから)

9月議会において、①コロナ禍、テレワーク・リモート型ビジネスモデルなど社会が大きく変化中、リニア新幹線の必要性は再検討されるべきではないか、②大井川の水問題や南アルプスの自然生態系問題が解決するまで、2018年にJR東海と合意した井川トンネル工事など一時凍結すべきではないか、など静岡市の姿勢を問いました。引き続き、議会の中で追及していきたいと考えます。

静岡市議会 2月定例会会議日程

- 2月16日～3月11日 (24日間)
- 2/16 本会議
 - 2/24～2/26 本会議(総括質問)
 - 3/2・3/3 総務委員会・企業消防委員会・市民環境委員会
 - 3/4・3/5 厚生委員会・観光文化経済委員会・都市建設委員会
 - 3/11 本会議 (まつや所属)

まつや清プロフィール

1951年 新潟県柏崎市生れ 静岡大学工学部中退
 1987年 静岡市議会議員(3期)、静岡県議会議員(1期)、
 国会議員政策秘書を経て、2009年より静岡市議会議員(3期)

観光文化経済委員会から

9月議会で、コロナ禍で民間事業者の参入は困難と海洋文化施設の166億円の債務負担行為は廃止となりました。PFI事業は通常の直営と比較し26億円の経費が削減されるとのことでしたが、資料請求によりその主なものは人件費15億円であることが判明。そのカラクリは直営では48人の正規雇用体制。PFIにおいては正規雇用5人、残り43人は非正規32人、アルバイト11人です。これが、PFIの優位性とは驚きです。

11月議会で、林業機械導入事業費助成をめぐる市内の森林業の実情を質疑しました。静岡市面積14万1000㎡のうち10万7000㎡が森林、そのうち人工林4万5000㎡、経営計画対象8000ha、経営計画のないところが3万7000ha。森林経営管理法に基づく森林事業者への集約化意向調査し、経営管理できない場合は市町村に管理権が移り、意欲と能力のある経営者に経営管理権を設定することです。森林行政の大きな転換です。



イベント・インフォメーション

- 1/28(木) 長野県から静岡県を考える
 ～南アルプスとリニア新幹線～ (無料)
 10:30～12:00 (zoom講演会)
 講師: 金丸 宗さん(長野県在住 映像ジャーナリスト)
 申込み: chikyu_house@yahoo.co.jp まで
 主催: 南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡
- 2/28(日) 議会が変わる 静岡が変わる
 まつや清市議が語る静岡市政
 第一部 14:00～15:00
 場所: 静岡市民文化会館 大会議室
 主催: まつや清を応援する会
 電話: 054-209-5677 月・水・金 10:00～15:00